



Vol.181
【広報】

小さな島
みなファミリーto
725知夫里島

(ラッキーセブン・ツー・ゴー)

平成17年10月1日 国勢調査725人

ちふ

平成19年
9月

目次

CONTENTS

知夫の夏	2~3	ふるさとへの想い	6
どっさり節海外公演	4	頑張れ! 知夫っ子/I ターン紹介	7
よ~い、まめかえ	5	花火大会	8

村の人口

DATA

平成19年9月1日現在
人口: 718人
(男: 334人 女: 384人)
世帯数: 372世帯
65歳以上人口比率: 42.28%



若きリーダー

隠岐牛の品質は良く、全国でも高い評価を受けています。6月15日隠岐畜産共進会において、堂下勝也さん(31歳・多沢)が一区、1歳未満の部で見事優勝。息子の桂吾ちゃん(4歳)に継がれる日もそう遠いことではないでしょう。



海上安全パレード
海上安全を祈り大漁旗をなびかせ勇壮に走る船団



牛の海泳ぎ
オンリーワン事業として全国に発信している
観光目玉商品です



モ～暑い



成人式
おめでとう20歳



サザエのつかみ取り
素手でサザエをつかむのが
喜ばれています



隠岐でのんびり海遊び
浅島の無人島で、サザエ取りやサザエ
入りの釜飯を食べての～んびりと海遊び

知夫の夏

海遊び、盆踊り、墓参り、同窓会、「サザエのつかみ取り」「牛の海泳ぎ」「花火大会」等各種行事、イベント。ふるさとならではの夏を楽しまれたでしょうか。



千の風になって



ご先祖様、来年も
帰らっしゃい



地引き網
どんな魚が入っているのが楽しみです



まめでな～



お松の思い 遙かかなたへ——

隠岐民謡「どっさり節」国境を越えて

隠岐民謡 しげさ会

マレーシア公演



金崎朝香さん



仲とき子さん



松下絹衣さん



仲 克忠さん

冬は荒々しく、夏は穏やかで優しい日本海に浮かび、緑豊かな自然に抱かれ人情味にあふれた知夫里島。

古くから日本海の交通の要所として栄え、地元のお松と北前船の船頭の恋秘話に生まれた隠岐民謡「どっさり節」の発祥地として全国に知られています。

「隠岐民謡しげさ会」は、六月二十四日、二十六日にマレーシア建国五十周年記念、馬日友好五十周年の記念事業としてペナン市とイポー市において開催された「Japan & Malaysia Folksong Festival」の記念公演に招待され、隠岐民謡を披露してきました。

公演当日には、州政府知事をはじめ、馬日友好協会の方々や市民の方々をお迎えし、満席での出演となり、出

演者と観客が一体となって盛り上がり、大盛況の中、終了することができました。

知夫村からは「あざみ会」の仲克忠・とき子夫妻、金崎朝香、松下絹衣さんが招待され「しげさ節」、「隠岐祝い音頭」、「どっさり節」を披露しました。特に知夫村発祥の「どっさり節」のお松の悲恋を唄った哀愁ある踊りは、満員の会場からは盛大な歓声と拍手がありました。後日、この公演内容が地元新聞にも大きく掲載され、マレーシアとの文化交流に役買ったことはもとより、国の文化は違えども文化に対する心は同じものという感動を得ることが出来たとの事でした。

ちなみに本村のあざみ会の仲とき子、金崎朝香、松下絹衣の三名の方は、第四十回伊勢神宮奉納全日本民謡踊り大会、クルージング船オリエントビーナス丸での記念事業時にも招待され隠岐民謡の踊りも披露しています。今回、夫の克忠さんの三味線の伴奏で踊ることのできたとき子さん夫婦は、特に思い出深い海外公演となったことでしょう。あざみ会の今後益々の活躍をお祈りします。

◆どっさり節の由来

昔、知夫村にお松という娘がいた。あるとき、この島に寄港した越後の船乗りと恋仲になった。その若者はいつも北国の追分節をお松に歌って聞かせていた。

夢のような日が過ぎ、再会の約束として別れたが、若者は、二度と再びお松の元へは帰って来なかった。哀しみに暮れるお松は聞き覚えの追分節を口ずさみながら、若者を偲んだ。お松の節回しは若者のものとは違っていた。島の人々がそのことを言うとお松は「どっさりくっさり似ています」と言っていて、うに笑みを浮かべた。どっさり節の歌詞はどこか悲しげな、今にも消え入りそうな哀感がある。

島津島にあるお松の碑のそばには
忘れられよか 知夫里の港
遠いどっさり 二日月
明日が別れの 洗髪

と西条八十の詩碑がひっそりと佇んでいる。

※お松物語は、高田宏著「島へ」（小学館発行）に詳しく掲載されています。



お松の碑

よ～い、 まめかえ

この夏帰った人

毎年帰省する方、久方ぶりに帰郷した方、「いつ帰っても知夫は景色が綺麗、空気が澄んで、飯がうまいな～」という感想が多く聞かれました。
来年もまた、まめで会いましょう。



アウビがうまかった。
広島市 川上真一 (40歳)



すべてがス・テ・キ。
広島市 金築和美 (35歳)



毎年帰っています。
空気がうまい。
三重県津市 大空秀寿 (50歳)



緑が涼しくしてくれてます。
大阪府堺市 仲濱千佳司 (60歳)



盆踊り、最高！
尼崎市 崎 衛 (58歳)



いつ帰っても知夫はきれいだなー。
大阪府泉佐野市 小新哲司 (41歳)



この静かさが最高！
松江市 村尾 崎 みゆき (33歳)



空気が美味しいですね。
兵庫県明石市 大原正雄 (58歳)



知夫里最高！
尼崎市 加藤(濱)公恵 (35歳)



知夫はいいな。
兵庫県神戸市 大空俊彦 (50歳)



住んでいる人間が好き。
大阪府高槻市 小坂(鹿島)悦子 (66歳)



また、もどってくっどー。
千葉市 澤谷正八郎 (48歳)



30年ぶりに会った奴もおってナ、感動したどー。

西宮市 崎 周二
尾道市 亀澤幸雄
松江市 安藤文雄
神奈川県横須賀市 永見 正
神奈川県綾瀬市 矢田俊二
(みなさん同級生の56歳)



いやされるわー。
尼崎市 平木美穂 (35歳)



飲みすぎたわい。
大阪府高槻市 道川義秀 (55歳)



みなさんまめにしますか。
京都市 井藤 一 (50歳)



知夫里島パラダイス。
愛知県豊田市 大空宗茂 (46歳)

なつかしい少年時代

諫早市 松野保利（六十六歳）



私は、昭和二十八年に古海分校を卒業、中学校には二年生の二学期まで在籍させていたできました。その後、江津中学校、長崎中学校へ転校し、長崎に生活の場を求め定年退職し、現在、諫早市に住んでおります。

知夫村での生活は十年余りですが、当時は電気もなく、ランプ生活で、夜明けと共に起床し、日暮れと共に就寝するといった今では想像もできない暮らしでした。

平成十三年に村での中学第九期同窓会に誘われ、参加させていただきました。何と四十一年振りの帰郷でした。親戚、知人から島の変貌は聞いておりましたが、環境の変化に驚き、歲月の経過とともに一抹の寂しさを感じずにはいられませんでした。

しかし、一方で村の発展のために美しい自然との調和をはかりながら経済の効率性、生活の利便性を考えて道路を造り、港を整備された御苦労は如何ばかりかと、思いを馳せ心をうたれた次第です。日本各地で乱開発のため自然が破壊されている様子を見聞しますが、幸い、村では、皆様の努力により、少年時代の風光明媚な自然が残されており、私を優しく迎えてくれました。

自然豊かな知夫里で過ごしたことで、中でも古海時代の遠い日の風景が鮮明に甦ってきます。

今は廃校となり、校舎もありませんが、校門の石段を上った所に大きな桜の木があり、「桜んぼ」を食べて唇が紫色に染まったこと、カランカランと週番が鳴らす鐘の合図で授業が始まり、同級生六人で複合教育を受けたこと、そして、今は亡き恩師、永見六郎先生のお話、真夏のまぶしい陽光

の中で海の恵みを享受した日々、反面、北風が吹き荒ぶ冬の厳しさを遣り過すため雨戸を締め切って生活した日々、子供なりの悩みがあつたろうと思われませんが、今は全て楽しく、懐かしい映像となつて甦ってきます。

私の心には普段は忘れてしまっている少年時代の感情が、大切な故郷の想い出が、数え切れないほどつまつており、時には疲れた心を癒し、ある時は勇気を与えてくれました。又、島が贈ってくれたもの、それは美しい景観と同居する厳しい自然環境の生活の中で育てられた忍耐力だと思っています。都会の人に決して負けられないと故郷を想い、頑張つて参りました。故郷は私にとって「力」を与えてくれる特別な場所なのです。

出郷者にとつて、幼友だち、友人、知人への想いは様々だと思われませんが、誰にでも共有出来る、心を癒してくれるのは自然豊かな知夫里の風景ではないでしょうか。この島を守るために厳しい郷里の現実を認識された上で、知夫村を終の住処とされた方々に敬服し、感謝申し上げます。

私は島の恩恵を受けるだけで、何の恩返しもししておりません。村のために何が出来るとか自問自答している昨今です。非力な私に出来ることは、長崎の地で知夫村を宣伝し、一人でも多くの人々を島へ誘い、知夫の産品を購入することだと思っております。

今後とも、私を育んでくれた故郷を誇りに思い、充実した生活を送る所存です。知夫村万歳！

ふるさとへの想い

「ふるさとの山に向かいていうことなし、ふるさとの山はただありがたきかな」
(石川啄木)

ありがたき知夫里

大阪府大東市 向濱敏人（五十九歳）



名古屋の福祉系大学を卒業してから大阪市内の医療機関、介護施設で三十八年間、自分でいうのも変な話ですが働きづめに働き定年を目前にしている今、話題の団塊の世代です。

地方自治体の財政赤字が全国各地で深刻となり、それに追いつけなかつた医師、看護師不足で私の働く病院も例外でなくきびしい経営環境の中にさらされていて毎日が生き残りをかけた格闘の連続です。

そういう事情もあり、両親が亡くなってからは、知夫里ともすっかり縁遠くなつていたのですが、先だつて、出雲大社で還暦の厄払いをし松江の宍道湖畔で一泊、翌日はホテル知夫の里で一泊する二泊三日の同窓会があり何年ぶりかで帰郷しました。赤ハゲ

山から眺める自然の雄大さと咲き乱れる野大根の花の美しさ、そして、ホテルでは、絶品のメバルの煮つけや友の好意で用意されたサザエやあわびの刺身を堪能できました。忘れかけていた盆踊りに興じ、夜を徹して幼なじみと語り合った時間は、くたびれかけた私の人生に「団塊の世代も捨てたもんじゃやない」と活をいれてくれました。

水道もなく電気もない、夏の日の麦飯には蠅が黒山のようにたかっていた時代、井戸水を汲み、ランプのホヤをみがき、春はわらびとり、夏は小鯛つり、秋には遠足でたなごをつみ、冬は凍える荒海で



5月12日知夫中学校卒業第16期生会を盛大に開催

イカ釣りをした幼かった頃の様々な思い出、遠い記憶を呼び覚ましてくれた楽しいひとときでした。



最後はやはり盆踊り（ホテル知夫の里にて）

同窓会は、ホテル知夫の里で



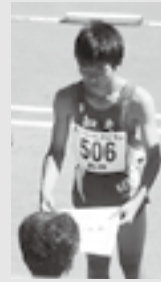
敷 質理ホテル支配人

田舎料理のごつつおうと露天風呂があなたを待っています！！

頑張れ！知夫里っ子

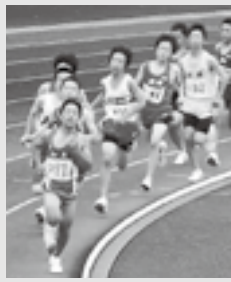
島根県中学陸上二五〇〇m制覇

平成十九年七月二十二日第四十一回島根県中学校陸上競技選手権大会一年千五百メートル競走で見事優勝を果たした知夫中学校一年渡辺涼太君（大江）。久



中国大会表彰式（6位入賞）

方ぶりのスターの誕生に皆一様に「だれに似ただい」と話題に。失礼な話、父親である智彦さんではないという意見は一致。答えは、年配者の方々の一言。「おじいさんのミイ君（渡辺



県大会でトップを走る涼太君の姿

翠さん）が飛ぶように速かった」とのこと。いづれにしても島根県代表として中国大会に出場。まだ一年生ということもあり陸上関係者から熱い視線が注がれています。

全隠岐相撲選手権大会優勝

「ハッケヨイ、ノコッタ」第六十一回全隠岐相撲選手権大会が、六月二十四日隠岐の島町の隠岐水産高校相撲場において小学四年生から一般まで約百二十人が出場して行なわれ、六年生の部で川本息生君（仁夫）が見事優勝を果たしました。師匠は、元隠岐水産高校相撲部OBの福山孝行（五十二歳）さんの指導の下、僅か、一週間の短期間の練習で栄冠を勝ち取りました。本人の底力もさることながら師匠から勝つ極意をさずけられた賜物か。いづれにしても相撲の盛んな隠岐島町での優勝は見事なものでした。



1 ターン紹介

知夫里の4ヶ月を振り返って

福井県敦賀市より

田中継昭さん（62歳）
初美さん（63歳）



隠岐知夫里を知ったのは2年前であり、この間三度ほど当地を訪れた。島の自然に魅了され、定年後の人生は知夫里の自然の大地、海原の環境と共に過ごそうと決断した。

やがて今春4月13日に訪れ、感慨深いものもあったが福井県敦賀の住み慣れた家を後にした。

漁業は初めてのことであり、右も左も何一つ分らなかったが、知人でもあった薄毛の山本周一さんの元で漁について基本的なことをご教授して頂いた。オコゼに指を刺された痛さもオマケとして教えてもらった。

そうこうしているうちに早4ヶ月が経ってしまったが、多くの人の親切や人情ある思いやり、ご指導をいただき心より感謝しております。

今後も人間面での向上に努め、島の皆様方と仲良くしていただけるよう妻と共に精進してまいりますので、宜しくお願いいたします。

ふるさとのオリジナルTシャツ

好評販売中

チャネルならずも「ガメルシャツ」他、知夫里オリジナルシャツをふるさとの土産にいかがですか

問い合わせ

知夫村役場広報係まで
(08514)8-2211



新婚さんお帰りなさい

そろそろ1年。
いつまでもお熱いご夫婦にチョ～イ、ヤッサー！

宿 竜一・里香さん
(35歳) (32歳)



広報郵送料のお礼

金一封をいただきました。ありがとうございます。

（敬称略）

星野 和子（東京都）
竹川 敏徳（大阪府）
前川 茂（松江市）
道上 亨（北九州市）
田上 イシ（京都市）
笠石 富子（北九州市）
淀川 晃俊（神戸市）
前 八重子（宇部市）
安達 隆吉（松江市）
山田美和子（東京都）
道畑美千代（大阪市）
田下 昭久（尼崎市）

編集後記

わたしが両手をひろげてもお空はちっともとべないがとべる小鳥は私のように地面を早く走れないわたしがかからだをゆすつてもきれいな音はでないけれどあの鳴るすずはわたしのようになくさんの歌はしららないよすずと、小鳥と、それからわたしみんなちがって みんないい

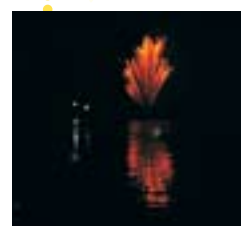
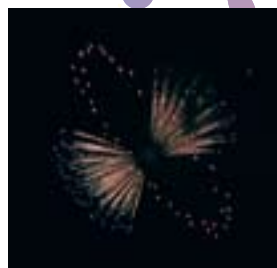
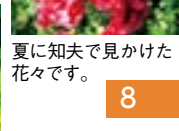
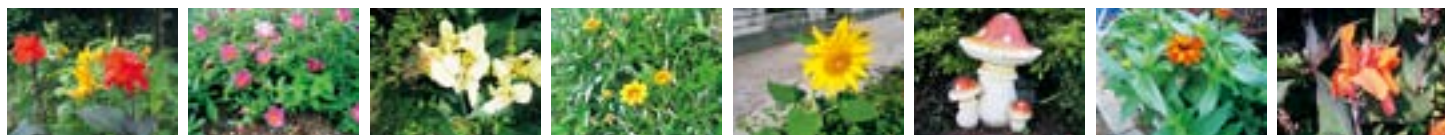
金子みすゞ

「わたしと小鳥とすずと」より

変わらぬ自然美と人情味あふれる知夫里島。

来年もまめで会いましょう。

直通電話〇八五一四一八九〇一三
E-mail: chisen@chibu.jp (山本)



花火最高～

おびえたどー

よかったね～

シャッター
チャンス！

第10回花火大会

村内外からの沢山のご寄付ありがとうございました。

知夫湾内で繰り広げられる盛大な爆発音と閃光が夜空を彩る花火大会、ふるさとならではの夏の夜の感動を家族みんなと、里帰りの人達と、仲間たちと、恋人と楽しんでいただけたでしょうか。今後共、宜しくお願いします。

花火大会実行委員長 古谷光教



夏に知夫で見かけた花々です。